

自治協ニュース

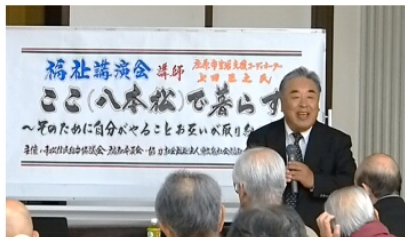
第0107号
発行者
八本松住民
自治協議会
R01. 12. 20

自治協 福祉講演会

ここ「八本松」で暮らす

そのために自分が心がけること、お互い(地域)で取組むこと

この講演会は、福祉対策の重点の一つ「助け合い・支え合いのつくりと気持ちづくり」を進めるために開催されたもの。当日は77人の住民の方が八本松地域センターに集まり、熱心に聴講された。



庄原市生活福祉部の上田正之さん

11月16日(土) 八本松住民自治協議会福祉委員会(委員長 信国武登)は庄原市生活福祉部高齢者福祉課生活支援コーディネーターの上田正之さんを迎え、福祉講演会を開催した。

元気な時から心がけておきたいこと

元気なときからのつながりづくり(頼んだり頼まれたりの“おたがいさま”の関係)を強く意識する

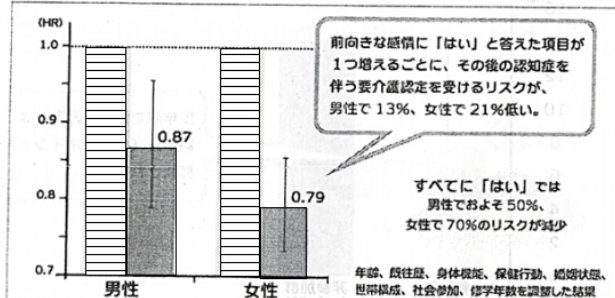
* 自ら心を開き周りに「ちょっと応援して」が言えますか?

▲ 年を重ねるとともに、一つ、二つ、三つ...、自分だけでは家族(二人暮らし等)だけではできない事が増えてくる

前向き感情で認知症リスクが半減

幸福感や満足感など前向きな感情を強く持つ人ほど認知症に至っていない

前向きな感情得点(0~5点)が1点上がるごとの認知症リスク



上図は講演会資料より

福祉活動の現状を報告なかでも、八本松南地区で実施されている「助け合い・支え合い」の生活支援活動の状況を紹介した。また、「ここ(八本松)で暮らす」と

題し、「地域福祉のあり方」について講演された上田さんは、「八本松住民自治協議会の地域福祉の進め方や最近取り組まれている地域での生活支援活動に感動した」と述べ、「これを契機に地域のあり方を見直す必要がある」と強調された。

「特に、10年から20年内に超高齢化社会を迎え、必ず暮らしづらさを感じる時が来る。今お互いの気にかけるや、ちよ

とした助け合い活動に取り組みなければ将来暮らしやすい地域とはならない」と地域社会と福祉活動の結びつきを述べた。そのため、「自分が心がけることは、1健康寿命を延ばす努力 2暮らし方を自分で決め、人と人との繋がりを作ること 3自分の家族と近隣とのつながりをつくることで、そのよ



講演を聴く参加者の皆さん

八本松みなみ&八本松南4・5地区自主防災会

合同防災訓練

八本松みなみ地区自主防災会(会長横井國興)と八本松南4・5地区防災会(会長上野崇将)は12月1日(日)に八本松市民グラウンドで消防署西分署、市社会福祉協議会及び新生園の協力を得て、合同で総合防災訓練を実施した。

二つの防災会は共通の道路や水路を有し、比較的古い家が密集した一団の地域のため、大規模災害に備え合同で防災訓練が実施された。



車椅子の扱い方の説明を受ける参加者の皆さん

参加者は100人、訓練はこの地域で最も心配される地震と火災を想定し、119番通報、初期消火、応急救護、毛布による担架搬送、車椅子搬送等の基本的な訓練を行った。

どの訓練も救急車や消防車等の助けが来る前に地域が協力して対応しなければならぬもので、両地域の協力も求められる。

指導に当たった消防署西分署、市社会福祉協議会、新生園職員の方は、通報の仕方と口頃の心構え、新型消火器の扱い方、三角巾の結び方、段差での安全な車椅子の扱い方等ポイントを分かりやすく説明した。

また、車椅子による搬送では、少しの障害物でも扱い方を誤ると危険をもたらすことを確認し、患者に不安を感じさせない安全な搬送を

地で学んだ。また、バケツリレーは、両地域の理解を深めるうえで大切な訓練となった。

最後に行われた防災クイズは、高度な出題でも多数の全問正解者が出て、この地域の防災意識の高さが伺えた。

講評で、消防署西分署の柏木さんは、「皆さん一人一人が防災意識を持って真剣に取り組まれている姿に感銘した。今後、こうした訓練により多くの方が参加され、地域全体の防災意識を高めていただきたい」と述べた。



100人でバケツリレー

防災の基本

防災会編成後 最初の訓練

近所同士のご近所づきと避難

11月10日(日)七つ池ハイイツ防災会(会長中山亨)は、消防署西分署と自治協防災委員会の協力を得て、地区の集合場所(七つ池ハイイツ第2公園)で防災訓練を行った。この防災会は、八本松南4丁目丘陵地帯にあるまとまった団地(152世帯)で、以前の八本松南4・5地区防災会から最近再編成されたもの。



座って説明をける参加者の皆さん

とあいさつした。

また、消防署西分署の水越さんは、「災害が発生したらどこに避難するか日頃から家族で話し合うこと。必死で逃げ、必死で自分の命を守ることが防災の基本です」と力説した。

消防署への通報は、消防署指令センターとの対話を通し、場所等現場の状況を的確に伝えることができることを数名の方の模擬訓練で体験。

また、初期消火では、消火器の扱い方を分かりやすく説明を受け、多くの参加者が実体験した。

休憩時間には、発電機2台(自治協所

有)を使用し、温かい飲み物が配られ、参加者の皆さんは配布された椅子に腰掛、ご近所と情報交換。発電機は災害時の必需品で、今後導入を計画されている。

最後に河井副会長から「今日は近所の方と話をしていただけばと思ひ椅子や温かい飲み物を用意しました。ご近所とのつながりを大切にしましょう」と述べた。

終了後、中山会長は「今まで参加できなかった方も参加され、地域の方のふれあいの場も提供でき、中身の濃い防災訓練ができた」と語った。

この日は、再編成後初めての防災訓練。住民の皆さんは、集合場所にご近所と誘い合わせ55名の方が参加。最初に自治協防災委員会の牧野委員長は、「災害時に最も重要なことは、日頃からのご近所とのつながりです」